

No. 96

2015年 (平成27年)
7月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐 淨映

ひかり

自力はげんで
まことはきか
み世いのりに
身をやつす

妙好人
六連島のお軽



仏前結婚式 (於 蓮専寺)

阿弥陀経に聞く (最終回)

学校で学ぶような知識を身につけるのではなく、仏の教えによって先人の残した行いや隣人の苦悩を自分の知恵としていただくのです。親鸞聖人は、阿弥陀さまのみ教えを法然聖人から伝えられたままに、伝えるといわれました。伝えるというのは、聖人の血となり肉となり伝わったものです。空洞では伝わりません。あなたは、この阿弥陀経をどういただきましたか。

天・人・阿修羅等とありますが、この「等」は、天・人や阿修羅などという意味ですが、この「等」を私は、この阿弥陀経が説かれた祇園精舎に集まっておしゃカ様のお説法を聞いていた菩薩さまや天の神々や六道の阿修羅などというだけではなく、この「等」に「私」を入れて欲しいものです。阿弥陀経を味わうのに、これをおしゃカ様の時代の昔のインドの話として理解するのではなく、今、ここにいる自分がこの阿弥陀経を聞いている中の一人だと味わって欲しいのです。

(永原智行)



礼讃文について

われ今幸いに

まことの民法を聞いて

限りなきいのちをたまわり

如来の大悲にいだかれて

安らかに日々をおくる

謹んで

深きめぐみをよろこび

尊きみ教えをいただきまつらん

この礼讃文は、日常勤行聖典においては、讃仏偈・もしくは重誓偈の前のページに載っています。覚性寺においては、速夜参りの際には、必ず讃仏偈・重誓偈のお勤めとともに詠ませて頂いております。

私個人的には、一日の終わりにお仏壇で読経をした後に、礼讃文を詠ませて頂いております。

この礼讃文を少し詳しくみていきます

と、まず冒頭で、何を幸いだと言っているのかと考えますと、ご縁により阿弥陀様の大悲により、信心一つで救われていくというまことのみ法に出遇う事が出来た、そしてお浄土にこの世の命が尽きたと同時に生まれさせて頂く事により限りなき命を賜る事が出来ると最初の三行で語られています。

次の二行が礼讃文の核心であると思うのですが、(如来の大悲に抱かれて(この今生きている世の中において)安らかに日々を送る)とあります。

この世を生きていると、色々な事があります。別離の悲しみや、人間関係で思い悩む事、或いは何か失敗して後悔する事など。

そんな時礼讃文を詠んでいると、阿弥陀様に包まれている、守ってもらえているという実感が湧き、苦しみや悲しみを乗り越えていけるという前向きな思いが湧いてきます。

人は一人では生きていきません。どんな時、いついかなる時も阿弥陀様はそばにいて、私たちを包んで下さっている、生きていく上での灯台が、この礼讃文ではないかと最近私はそのように思うのです。

(埜崎教信)

法悦クイズ

灯明を点じる意味はどれでしょう？
次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 死者が迷わないために点じる。
2. 仏さまのお心を光明で味わう。
3. 読経する際の明かり取り。

95号の正解は、
「1. 仏さまの救いを喜び、感謝して称える」でした。
正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 中 美幸様	由良町 中崎工三コ様
由良町 松下トシエ様	由良町 磯田 由美様
由良町 磯崎 藤代様	由良町 平林ツタエ様
由良町 畑中 宏之様	由良町 松下 光男様
御坊市 塩田 廣一様	

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成27年9月20日(必着)

※発表は次号

仏前結婚式

桜満開の四月四日、蓮専寺に於いて池下幸浩君・直美様の結婚式が華やかにとり行われました。幸浩君は蓮専寺日曜学校の卒業生、少年期はお寺に遊びに来ては私をごまらせたやんちゃ坊主。大きくなつては住職のお酒の相手、また子供たちのめんどうも良く見てくれました。今年のはじめ「院主さん、結婚するからお寺でさせてほしい！」との事、私はうれしくて即諾しました。式のお手伝いに高校生のお宮村世里菜さん・中崎未歩さん・エレクトーン奏者に中谷美緒さん（三人とも日曜学校卒業生）に声をかけたところ喜んで引き受けていただきました。また子供たちや若いお母さん達もご一緒となつて華やかな中にもおごそかな仏前結婚式となりました。

お寺での結婚式は珍しい事なのかもしれません。現在宗教の関わる結婚式の形態として神道やキリスト教が多いのでしよう。しかし儀式の執行は司婚者が行います。婚姻の儀を司る神主様牧師様はほとんど結婚をする当人たちを知らないし当日顔を合わせ、後日話をする事も顔も覚えてないのではないのでしょうか。

「うちのお寺で結婚式をしたい!」「結婚式のお手伝いしてくれんか?」「子供のころからの思い出も、結婚後これからの関わりまで含めての仏前結婚式であります。まことに尊い事でもあります。」

お寺はお預かりしたご門徒様と関わっています。一緒に喜び、一緒に悲しみ、・・・そして、一緒に阿弥陀さまを聞き、一緒にお念仏を申しています。それがお寺ではないでしょうか。なんともうれしい仏前結婚式でした。

（岩崎法明）

門徒心得

「友引に葬儀をしてはいけないの?」

生前に「私、阿弥陀さまの願いを信じ、お念仏申します。ご往生できますよね」と話していたお方が亡くなりました。

遺族達が、その方の葬儀をしようとする日を決めたのですが暦を見たら当日は「友引」の日であることに気がきました。それで、葬儀の日を一日遅らせたいと言うのです。

どうして、「友引」に葬儀をしてはいけないのですかと尋ねると、「昔から葬儀は友引の日にすると思いとやわわっているの、日を変えろ」と言うのです。

貴方なら、どうされますか?

「友引」とは、暦注の六輝（六曜）の一つで、「広辞苑」には、「相引で勝負なし」という

日、友を引くとして葬儀式を営むことを忌む友引日」とありますが、一方、友引日に葬儀をしないのは「俗信」であると書かれています。親鸞聖人は「かなしきかなや道俗の、良時・吉日えらばしめ、天神・地祇をあがめつつ、卜占祭祀つとめとす」と悲嘆されておられます。

六曜などによる日の善し悪しに左右されることが無い教えを頂くのが浄土真宗のご門徒なのです。

故人は、阿弥陀さまのお慈悲を受け、ご往生された仏さまです。友を引き、不幸にさせるといふ仏さまでは有りません。友を悪い方に引くと言う話は「俗信」です。

「俗信」とは、何時しか誰かが言い出し広まった根拠のない話にすぎません。

「友引」の日であるから葬儀の日を変えるようなことは慎みましょう。

（鈴木悟峰）

読者の声

※ひかりを拝見する事ごとに門徒の心得が一つずつでも身につけているように思います。ありがとうございます。

※法悦クイズの解答に迷った際などには、浄土真宗本願寺派などのホームページを見ることがあります。今回の解答も、「阿弥陀如来を信じ、感謝の心と共に称える『他力念仏』こそが真宗の念仏である」という一文を読み、ヒントを得ました。これからも楽しみながら学んでいきたいと思えます。

※法悦クイズ、楽しみにさせて頂いています。

※ひかりが届くたびに読ませていただいています。わかりやすく丁寧に書いて下さって、読みやすくてわかりやすく楽しく読んでおります。

平成27年度日高組活動計画
御同朋の社会をめざす運動(実践運動)
日高組重点プロジェクト(第二期)

『御同朋の社会をめざす運動』とは、いのちの尊さにめざめる同朋一人ひとりが自覚を深め、浄土真宗のみ教えを社会に広め実践していく活動です。

宗門では御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の2015年度以降の第二期計画として、運動の基本理念や方法論は実質的に第一期を踏襲するもので、期間も15、17年度の三ヶ年。第一期で目標設定の参考とした災害支援や自死自殺などの八項目の「宗門の課題リスト」は示さず、「これまでの実績や『実践事例集』等を参考に、それぞれが主体的に取り組んでいただく」となっております。

日高組では第一期(2012、2014年)実践運動として「ヨコ・タテ・ナメのつながりを」をテーマに、「真宗法座・キッズサンガ・広報活動」の充実と拡大を実践目標に掲げ活動してまいりました。これらの活動

の成果は大いにありました。が、仏教壮年会活動の休止や過疎問題、少子高齢化などによる寺院活動の停滞など課題も山積であります。

第二期実践運動ではこれらの活動を継続しつつも、全国で活動されている「実践事例集」などを参考に新たな実践運動を取り入れていく必要があると考えています。

◆**総合テーマ**◆
 「結ぶ絆から広がるご縁へ」

◆**実践目標**◆
 老若男女が集まるお寺にしよう

◆**期間**◆
 平成27年度から平成29年度

◆**達成目標**◆
 組連研・真宗法座・キッズサンガの開催、組報「ひかり」の発刊、ホームページ更新、単位仏社の発足支援、子育て世代の支援、ビハーラ活動の推進などにより、全世代の同朋にお寺の魅力を発信できる活動を推進する。

◆**推進計画**◆
 平成27年度

- I 伝道教化・法座活動の実践
- ① 組連統研修会と真宗法座を開催する。
 - ② 葬送儀礼・勤式・作法などの統一を推進するとともに、仏事全般について理解を深める。
 - ③ 広報活動「文書伝道」「インターネット発信」を継続する。
- II 寺院活動の活性化の支援
- ① 単位仏社発足の支援のための検討をする。
 - ② キッズサンガ・ママさんフェスタを開催し、仏の子どもの育成や子育て世代を支援する。
 - ③ ビハーラ活動を推進する。(独居高齢者などの見守りや話し相手など)

日高組通信

名が出席しました。

組会に先立ち、26年度逝去された2名の物故者の追悼法要が片桐組長の調声で営まれ、教専寺永原住職による法話が行われました。

組会では、まず執行部より第1期実践運動の総括、第2期計画が提出され、第2期以降には新たな活動を取り入れ、組内寺院活動がより活性化する方向で実践していくことを確認する反面、問題化していた仏教壮年会活動の不活性化に対して、いかに問題を共有していくかの課題も浮き彫りとなりました。

続いて、26年度事業報告、決算報告、監査報告と27年度事業計画、予算審議がなされ、原案どおり承認可決されました。

今回の組会では、近年に例のない活発な意見や提案が組会議員より出され、少子高齢化や寺院離れなど日高組を取り巻く課題をいかに克服していけるか、議員一人ひとりが実践運動への姿勢を再考する機会となりました。

- ・ 総代会定期総会
 四月十二日、由良町網代念興寺に於いて日高組各寺院の総代、三十一名が出席し、二十六年度の事業・収支決算報告、二十七年年度の事業・予算を審議しました。
- ・ 総会後、念興寺住職上西偕行師からご法話をいただきました。
- ・ **行事予定**
 ・ 日高組子どもの集い「キッズサンガ」
 日時 8月22日(土)
 午前10時から
 会場 由良 光専寺
 キッズサンガを本年も開催いたします。
- 一人でも多くの参加をお待ちしています。あなたのお寺に申し込み下さい。楽しいこと、いっぱい準備しています。
- ・ **第4回連研**
 日時 8月1日(土)
 午後2時から4時
 会場 大引 浄明寺
 内容
 ・ 正信偈和讃・六首引
 ・ 仏教について
 ・ (日本)浄土真宗
 ・ 話し合い法座